

NPO 横断型基幹科学技術研究団体連合
2005 年度 第 3 回理事会 議事録 抄録

日時：2006 年 2 月 27 日（月）14:00 ～ 17:00

場所：東京 キャンパスイノベーションセンター

出席者：（敬称略、順不同）

副会長：木村英紀、江尻正員

理事：旭岡勝義、石原 直、岩岡秀人、岡本吉晴、木下源一郎、鈴木久敏、出口光一郎、
林 利弘、原 辰次、廣田 薫、藤井真理子、安岡善文

委任状提出者：木村忠正、舘 暲、原田 昭、柳川 堯

監事：千原國宏

事務局：井上雄一郎、清水祐美

A. 審議事項

1. 総会に提出する役員候補推薦について

役員候補推薦委員会委員長の江尻副会長より、各学会および役員等からの 2006 年度役員推薦についてとりまとめの経緯が説明され、結果が報告された。審議の結果、理事候補 23 名、監事候補 2 名を 2006 年度の総会において理事会より役員候補として推薦することとした。

2. 定款の変更案等について

(1) 役員の任期について

役員の任期等を定める定款第 16 条について、第 1 項の文言の修正が提案され、その理由が説明された。審議の結果、次の通り、定款第 16 条の改定を 2006 年度総会にて諮ることとした。

現行：第 16 条 役員の任期は 2 年とする。ただし最長 4 年までの再任を妨げない。

改定案：第 16 条 役員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、最長任期は原則として 4 年までとする。

(2) その他

(1) の定款改定にあわせて、役目を終えた条項の削除が提案された。審議の結果、附則 2～7 を定款から削除することも、総会に諮ることとした。ただし、削除に問題がないことを所轄官庁等に予め確認したうえで行うこととする。

3. 会費規程の制定および年会費区分の変更について

定款第 8 条に対応するものとして「会費等に関する規程」の制定が提案され、経緯等が説明された。

- ・正会員の会費について、設立総会、会員学会会長懇談会（2005 年 11 月 25 日開催）で、会員の少ない学会から年会費の引き下げを希望する声があった。これを受けて、設立当初の定めに加え、正会員数が 300 名未満の団体の区分を新たに設ける。この区分に該当する団体の年会費は 3 万円とする。なお、この区分には 2 つの団体が該当する見込み。
- ・一般会員の会費は、正会員の年会費の最低額と同じく 3 万円とする。
- ・入会金は、設立当初の定め（定款附則 7）の通り、当面徴収しない。

審議の結果、別紙の「会費等に関する規程」を制定することを、2006 年度総会にて諮ることとした。

4. 表彰について

第 1 回横幹連合コンファレンスにおける「ベストセッション賞」の表彰を、総会にて行うことが学術担当の鈴木理事より提案され、審議の結果、承認された。

- ・横幹の理念に沿いつ最も盛り上がったセッションとして、知の統合セッション「双対性」（オーガナイザー・室田一雄氏、発表者 5 名）を表彰する。

B. 報告・承認事項

1. 第3期科学技術基本計画に基づく具体施策の提案活動について

第3期科学技術基本計画に「横断的」の文言が入る見込みであることを受けて、具体的な施策提言を行っていくかについて、企画委員会の長期プロジェクト担当を中心に検討していくこととした。

2. 2006年度の総合シンポジウム（仮称）計画案について

2006年度に開催する総合シンポジウム（仮称）について、計画案が報告された。

- ・2006年11月に2日間の開催として計画を進めている。
- ・(1)「タテとヨコ」をテーマに、規模の大きい学会（タテ）から何人かを招いて討論を行うシンポジウム形式、(2)いくつかのオーガナイズドセッション、の2本立てでの構成を検討している。

3. 各委員会等からの報告

(ア) 開発・設計プロセス工学調査研究会

- ・2005年度の活動状況が、主査の林理事より報告された。
- ・活動期間を1年延長し2007年3月末までとしたいとの要望と、活動計画が説明され、審議の結果、活動期間の延長が承認された。

(イ) 共生コミュニケーション支援調査研究会

- ・2006年度に、精密工学会（同調査研究会の幹事学会）、感性工学会との共催でフォーラムを企画していることが報告され、承認された。内容、予算（損金・益金処理を含む）等、詳細は、調査研究会を所掌する学術担当理事が取り扱うことが確認された。

以上